

真実はいつも一つ?

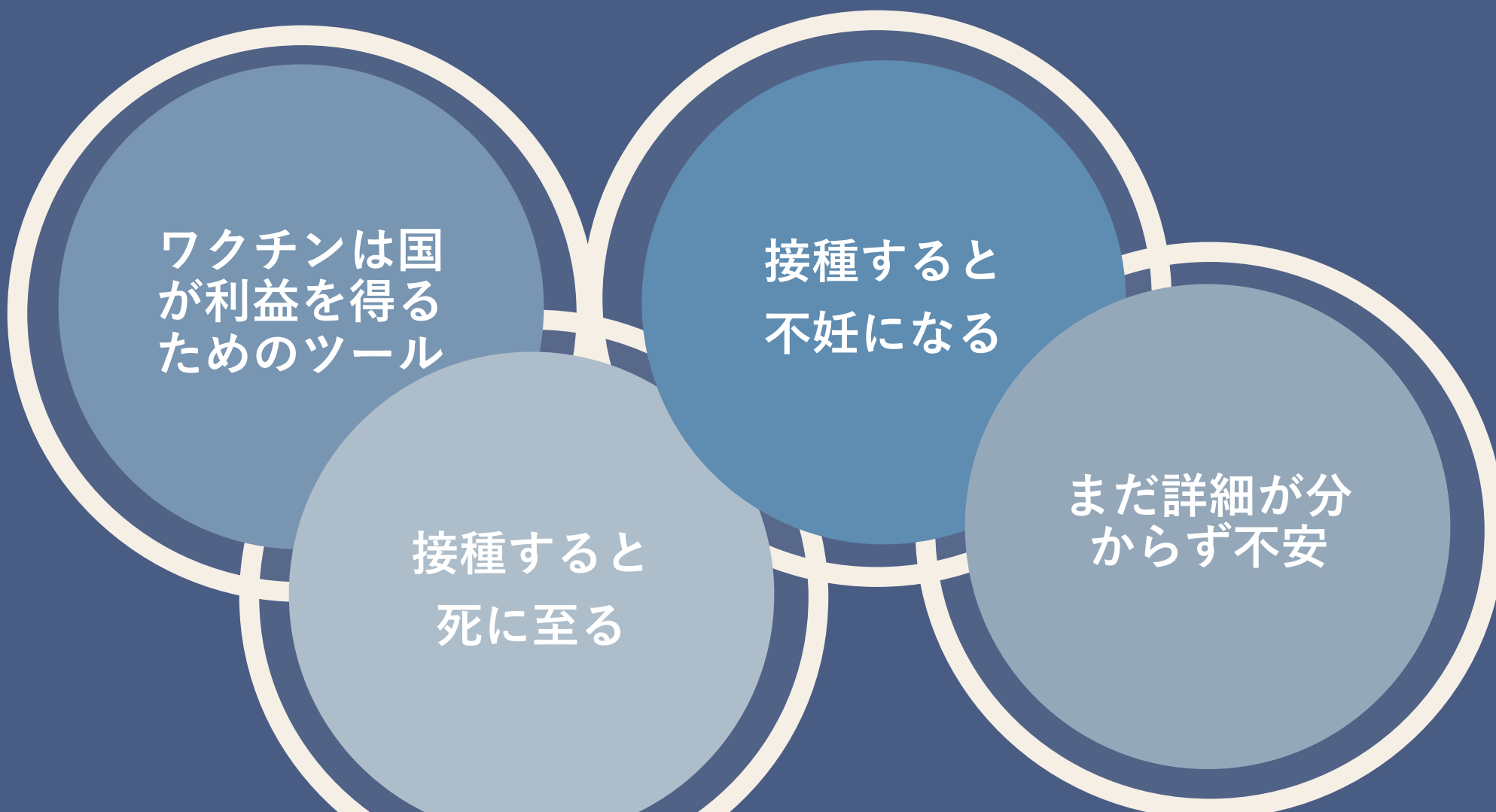
～コロナワクチンから見る情報社会の実態～

1. 研究背景

2. 取材

i. 「反ワクチン」言説

「反ワクチン」：
ここではレッテルとして用いられる総称を指す。
フェイクニュースから個人の意見まで多岐にわたる。



京都大学 医生物学研究所 宮沢幸幸 准教授 (ウイルス学)

・データが無くして安全と言い切るのは僕はちょっと無理です。ワクチンが安全なんですか?と聞かれたときに僕は分からないとしか言えません。僕は危険ですとは言っていない。
・僕は最初から(ワクチン接種を)ハイリスクの人だけに留めてくれと言っている。リスクが高くない人は未知のリスクがあるから、分からないから避けた方がいいのではないかという話をしていた。
・彼ら(反ワクチン派)は、僕を研究者として言ってくれている人として祭り上げる。けど僕としては困っている所もある。

「反ワクチン」の中でもなぜフェイクニュースが、信じられ拡散されるのか? 個人の意見が、フェイクニュースと混同されているのでは?

ii. 識者のお話

フェイクニュース：定まった定義はないが、陰謀論や偽情報から誤情報までを総称する。



桜美林大学 リベラルアーツ学群 平和博 教授 (ジャーナリズム)

・意図的なフェイクニュースは「偽りの発見」が埋め込まれ、受け手は誰も知らないことを見つける体験をする。結果、ネガティブな感情が掻き立てられ、「感情のスイッチ」が入り、フェイクニュースが早く広く広まる。
・事実には基本的にネガティブな感情が乗っておらず、当たり前で、何の発見もないわけなので、(省略)事実とフェイクニュースという情報は情報の類として別である。
・新型コロナの実態が当初分からなかったように、ユーザー側に十分な情報が届いていない、「情報の空白状態・真空状態」の時、フェイクニュースがその空白を埋める形で広がりやすい。
・有害情報の拡散対策が必要である。受け手のメディアリテラシーの向上やプラットフォームによるコンテンツ対策の強化、加えて対策の柱としてファクトチェックが欠かせない。間違った情報が流通しているなら、事実に基づいてそれが間違っているという情報を広めることである。
・情報に触れ、感情のスイッチが入ったとき、一度スマホを置く、深呼吸をするなどで、理性にスイッチを切り替え、条件反射で情報を扱わないことが大事。



東京工業大学 環境・社会理工学院 笹原和俊 准教授 (計算社会科学)

・コロナ禍になって、よりSNSを使うようになってエコーチェンバー化(自分が見たいものだけを見る、自分が繋がりたい人だけと繋がるといった傾向)が増幅されてしまったという側面はあるんじゃないかと思う。
・メディアリテラシーだけでフェイクニュースにカウンターできるかという、これだけ情報が溢れている社会の中では中々難しい。環境問題と捉えたと企業や企業が生み出すテクノロジーなどの大きいアクターがちゃんと活用されてスケールするような形で働かないと、個人の働きかけでどうにかなる問題ではない。私の研究のポイントとしては、そういったテクノロジーをいかに作り出すか。
・まずは正しくSNSの知識を持って欲しい。
・正しくSNSを怖がって欲しい。



国際大学GLOCOM 山口真一 准教授 (経済学)

・リテラシーが低い人そして情報を信じているの方がフェイクニュースをどんどん拡散していくので、その結果としてフェイクニュースが非常に広まりやすい環境になっている。
・ネット上の意見分布と社会の意見分布は違う。中庸な人は(フェイクニュースを信じている状態から)引き戻すことができる。
・メディア情報リテラシー教育を面的に広げていかなければならない。多角的な戦略で広める。究極的には私は、教育課程にいれるしかないと思っている。
・この情報社会において一番私たちの周りで変化したのは情報量。情報は常に日常と切っても切り離せないものである。

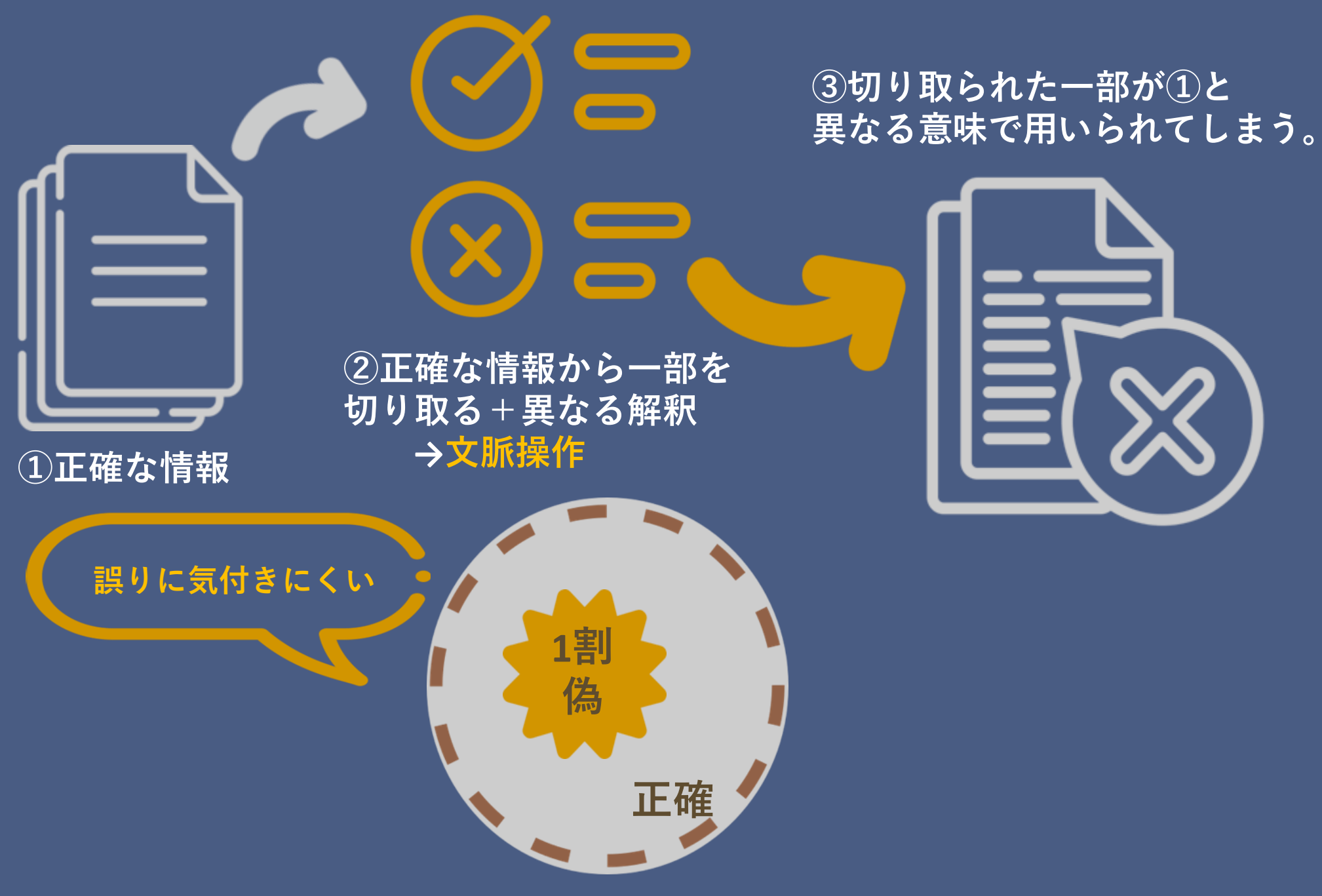


大阪大学 医学部 忽那賢志 教授 (感染制御学)

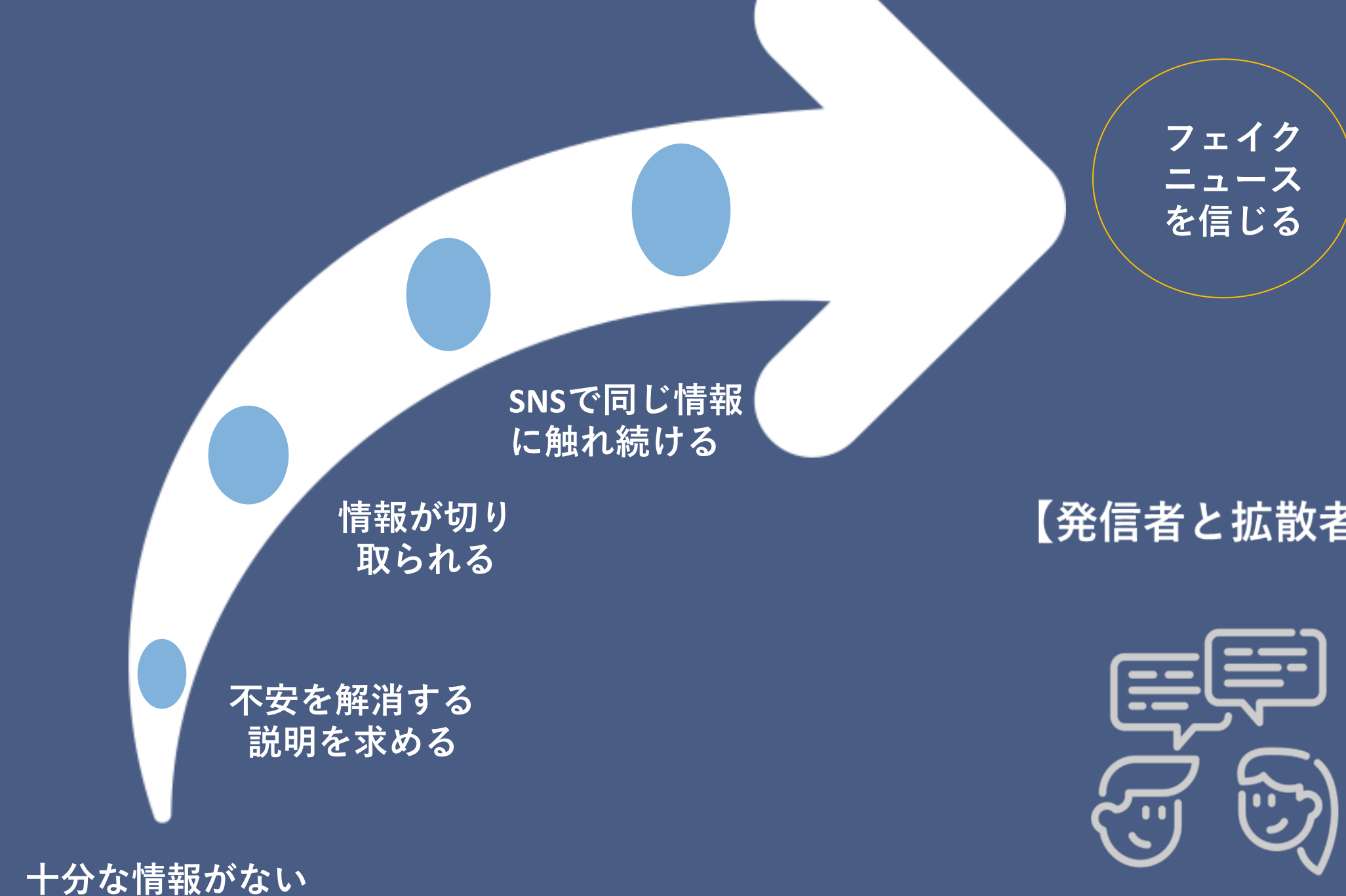
・(ワクチンの)効果は感染発症と重症化を防ぐこと。効果があることは間違いない。
・完全に安全というわけではないが、メリットとデメリットを考慮した上で、打った方がいいか打たない方がいいかということ各自で考えて打つかどうか決める。個人でワクチンのリスクとベネフィットを考えて接種をまだ待つというのは全然良い。
・僕の考える反ワクチンというのはワクチンが危険だと言って周りのこの思想を広げようとしている人たち。
・大事なのは、感染症に関する基本的な知識を持っておくこと。

iii. 分析

【フェイクニュースの成り立ち】



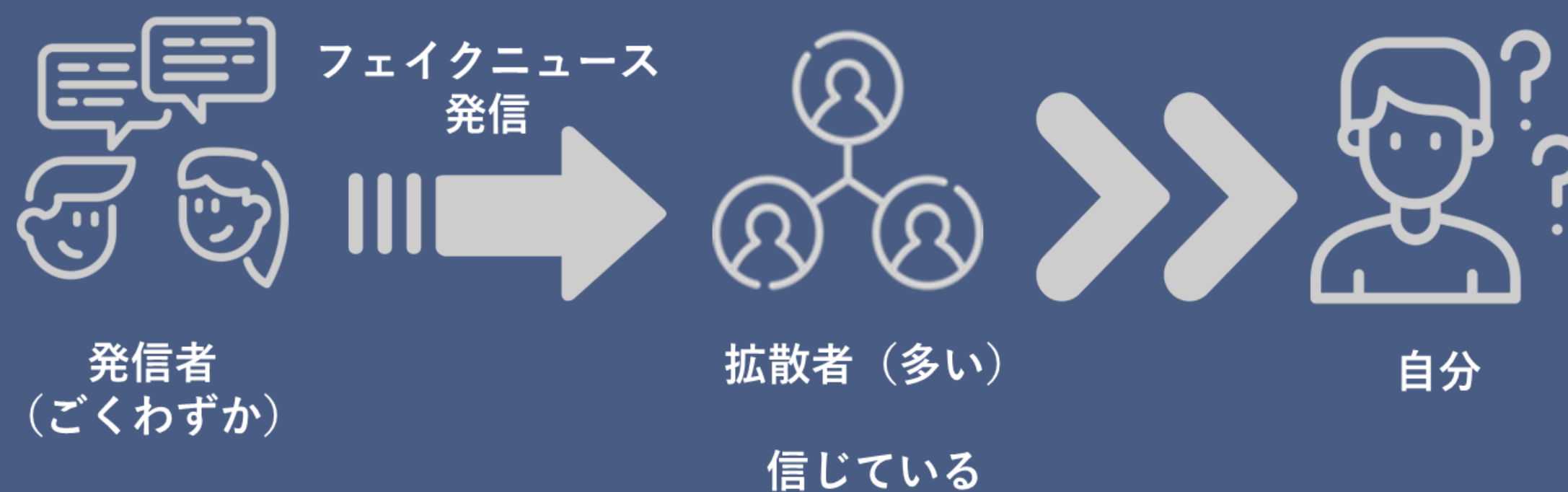
【フェイクニュースを信じるまで】



ちなみに...

宮沢准教授の動画をYouTubeに投稿したところ「誤った医療情報に関するポリシーに違反している」という理由で削除されました。現在「反ワクチン」と機械的に分類された主張が徹底的に削除されているのだと改めて感じた出来事でした。

【発信者と拡散者の関係性】



3. 取材を通じたチームの見解

発見

- 「反ワクチン」言説の中にはフェイクニュースから個人の慎重な意見まで多様なものが混在している。
- 身近に存在する、フェイクニュースの提供者は第一発信者ではなく、正義感の強い拡散者。
- 結論は異なっている、そこに至るプロセスは反ワクチン派とワクチン推進派で共通している点もあった。

分析

- 完全な反ワクチンではなく、単にワクチン接種に関して心配・疑問に思っているだけの人のことも「反ワクチン」とひとまとめにする人が存在する。
→フェイクニュースと個人の意見が一括りにされている。
- 完全なフェイクに関しては、対策が必要。
- ある事象に関して極端な情報を発信している人は少数派である。

対策

- 多数派である極端な意見を持たない人がファクトチェックの存在を知りそれを活用する。
- 情報は切り取られたものであること、そして私たちは信じたいものを信じてしまっているということを自覚する必要がある。

私たちは「その情報が正確であるからそれを信じている」ように考えているが、実際は「その情報が正確である方が都合がいいからそう信じたい」と考える傾向にあるのではないかな?